



# 子ども樹木博士 ニュース

2003-10

No. 12

子ども樹木博士認定活動推進協議会

## インターネットで見る、樹木図鑑 (その①)

日本大学生物資源科学部教授 井上 公基



私たちが地域の小学生を対象に子ども樹木博士をはじめ、今年で3年目になります。開始当初は、近隣の小学生を対象にキャンパス内で実施していましたが、最近はこちらから出かける「出前授業」が増えてきました。そのような時は、場所の下見や、そこにある樹種の事前チェックや虎の巻き作り、さらには配布用資料作りが欠かせません。特に子どもたちへの資料は、わかりやすく、きれいなものがが必要です。

こうした説明資料や配布資料を作る際に参考になるのがインターネット上の樹木図鑑です。今回は、私たちが子ども樹木博士実施の際によく利用するサイトをご紹介します。

### ★木々の移ろい：

<http://www.asahi-net.or.jp/~ir5okjmt/kigi/kigihome.htm>

このサイトは、1年を通じて開花する身近な木の花や紅葉、さらに木の実を紹介すると同時に、全国各地の巨木の写真を紹介しており、サイトの特徴としては、650種の樹木を科名別、50音別、季節別に分類していることである。また写真紹介が特徴的で、花（雄花・雌花）、果実、葉、さらに幹まで紹介され、いろいろな角度からのアプローチが可能な図鑑である。

### ★立田山の樹木：

<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/tatuta/jumoku/name.htm>

本サイトは、森林総合研究所九州支所が作成したもので、掲載樹木は300樹種に及ぶ。樹木の花や葉を見て樹種を探することができる樹木図鑑。樹木図鑑の他には花や虫、鳥獣やきのこ、さらに虫や鳥の図鑑があり、幅広い分野をカバーしている。

### ★いしかわ森林図鑑：

<http://www.pref.ishikawa.jp/ringyo/index.htm>

石川県に自生するほぼすべての樹木430種の図鑑。樹木名からの検索以外に、葉の特徴からも樹木の検索が可能。樹木図は、「石川県樹木誌図譜」と「石川県樹木分布図集」とが基になり、スケッチにより描かれた温かみのある図鑑である。

### ★緑の絵画館：<http://www2.tokai.or.jp/jumoku/>

全体がとてもメルヘンチックなサイト。図鑑の写真はとてもきれいで、見ているだけでも楽しくなる。掲載の98種類は、それぞれ違った角度から観察できるよう、4、5枚の写真により構成され、大変丁寧に作成された図鑑。

### ★樹木の四季：<http://homepage1.nifty.com/s-ozeki/>

樹木別に四季折々を紹介、一つの樹木をたくさんのきれいな写真で紹介していて、アクセス数58万と非常に人気のある図鑑。管理者自身で育てた樹木紹介を基本に、国内はもとより、熱帯産樹種まで紹介している。植物好きな人には、写真を眺めるだけでも楽しくなるサイト。

### ★造園樹木の図鑑：

<http://www.h3.dion.ne.jp/~itoi/hpdata/zouenzukan.htm>

造園用樹木は約300種類が使用されているそうだが、このサイトは公園や庭園に植栽された樹木の名前、種類、性質や形態なども調べることができる。カラーのスケッチが印象的。この他に、庭造りの参考用に、住宅の庭や庭園の紹介も。

紙面の都合で多くをご紹介することが出来ませんでした。これ以外にも、これらサイトからリンクされている多くの図鑑を見つけることが出来ます。インターネット利用は、瞬時に多くの有効な情報を得ることができ、今後の子ども樹木博士実施準備にも役立ちます。

今回は、私たちの地域の小学校用に作成したCD図鑑を紹介いたします。

## 特集



## 「子ども樹木博士」はじめの一步

## ② 木と遊んで木を知ろう

東京大学 森林経理学研究室 研究員 **吉村妙子**

前回は、私たちが子ども樹木博士を実施したときに、子どもたちが覚えやすかった木・覚えにくかった木について話しました。それに関連して、今回は、子どもたちが自然観察をするときにどのような動植物をどのように認識しているかを調べた研究から、子どもたちに楽しく易しく木の名前を覚えてもらうヒントを探してみたいと思います。

はじめに、最近の子どもたちの自然体験についての報告を見てみます。小学校4～6年生までの子どもたちに自然体験について尋ねた研究によれば、例えばドングリは拾ったことがあっても木の実を食べたことはなかったり、山の中を歩いたことはあっても清水を飲んだり山菜を採ったりしたことはなかったり、というように、深く入り込む経験が少なくなっているようです。その他の研究でも植物遊びの体験が減っていることが示されています。一方、直接触ったりつかまえたりした経験がある動植物ほど名前や生息地などがよく理解されていることや、遊びの対象になっても名前の知られていない植物が、意外とあることを明らかにした研究もみられます。また、行事に使われたり食用にされたりするもの、教科書によく出てくるものなどは、子どもたちはよく知っているようです。どうやら、木の実を食べたり木で遊んだりといった経験や、テキストの存在が、自然の理解につながるようです。

話は少し変わりますが、幼児はまず動くもの＝生物として擬人的に関心を持ち、やがて5～6歳頃になるとだんだんに生物の機構を理解してきて、動かない植物も生き物なのだと分かるようになってくるようです。さらに7歳過ぎになると、実際に見ている対象の本質的な特徴を判断したり分類したりすることができるようになり、12歳以降になるともっと抽象的な思考も可能になるということです。小学生、とくに低学年の子

どもたちが観察会のときに虫を見つけて熱心に追いかけているのは、その年頃に必要な、大切な体験をしているのですね。

さて、今回参考にした研究は、小・中・高校生対象の「私の自然観察路コンクール」の作品に描かれている絵地図と解説文を分析して、子どもたちの自然認識の仕方を調べたものです。鳥や虫、草などいろいろな自然について調べているのですが、とくに木について述べているところを中心に読んでみました。

それによれば、子どもたちがその木の存在に気づき、対象として選ぶときには、主に「外見（色・形・大きさ・目立つなど）」、「量（いたるところにみられる、たくさんある）」、「逸話・背景・価値などの知識」、「限定されていること（特別な時・所でしかみられないなど）」、「日常生活での関わり（遊びに使う・育てている・食べられるなど）」といった側面によってのことです。また、遊びに使われたり教科書に載っていたりすることが多い木ほど認識されているという傾向があるそうです。なかでも、木・草・鳥・虫をあわせた結果なのですが、小学生では「逸話・背景・価値などの知識」によって対象を認識することは少なく、具体的な側面から自然を認識する傾向が強いです。

この研究成果を参考にすると、小学生が樹木の名前を教えるには、指導者は外見を中心に具体的な説明をすること、触ったりにおいをかいたり遊びに使ったりして実際に樹木と親しむことが有効だと考えられます。子ども樹木博士認定会を行う中で、大人のほうも樹木と遊んだ経験を思い出したり、子どもたちから普段その木とどのように遊んでいるかを教えてもらったり、新しい遊びを発見したりして、子どもたちと一緒に自然体験できたら楽しそうですね。

また、私たちが実施したときに最も正解率が高かったイチヨウは、見た目が特徴的で植えられている数も多いという条件を備えていました。このように地域でよく見られる特徴的な樹木を出題することで、地域のみどりに親しむことと、点数をとって充実感を味わうことができそうです。

参考文献：海津ゆりえ（1998）：「自然観察における子どもの動植物に対する認識に関する研究」、東京大学農学部演習林報告、100、31-130



# 楽しかった! 暑かった! 「子ども樹木博士」認定会

岐阜県土岐市 高橋 久義

今年の夏は雨の日が多く「子ども樹木博士」認定会の日はどうかと大変不安でしたが、当日の8月3日(日)は朝から晴天で大変暑い日でした。子ども達は、山を歩いていろいろな木の話聞いたことを大変楽しかったと喜んでくれました。

## ◆実施しようと考えた理由

子ども樹木博士を実施しようと考えたのは、40年余樹木と関係した職場にいて、地球の温暖化という自然環境の変化には、樹木が大変影響を持つことから、これまでの業務の経験を活かし、これからの世の中を生きる子ども達に、自然や環境について直接触れながら学んで欲しいと考えたからです。

実際準備を初めてみると、「こと」を起こすことの大変さを思い知らされました。これまでの1年目では施設との交渉などの面で、難しい調整となりましたが、2年目の今回は、市も理解を示してくれ、市のネイチャー施設「陶史の森」の協力も得られました。

8月3日に実施となり、1ヵ月半と準備期間が短く、出来るのかどうか、あせりと不安が交錯しました。具体的には、インストラクターの依頼、市広報原稿作成、周遊の散策地の検討、樹木表の作成、市連合親子会への参加依頼、施設近隣の市内2小学校への参加依頼、中日新聞社への原稿送付依頼などを行いました。(中日新聞社は、計画も実施後の様子も載せてくれました。)

その他、現地樹木の名札の設置、標本木の採取等々、様々な準備を行いました。

## ◆認定会当日

当日は、6家族13人が来てくれました。子どもは幼稚園児から中学1年生までの10人です。簡単な挨拶の後、1時間20分位をかけて、森林インストラクターと現地の山を散策し、35~40種類程の樹木の説明を聞いてもらいました。

当日は木陰を歩いても汗が吹き出る暑い日でした

が、子どもたちは、辛抱強く、頑張って話を聞いてくれました。また、室内では休憩をとりながら、子どもたちに木の枝を見せ、その特徴や名前の復習を行いました。

認定試験ではメモは見てもいいが他人と話さないということで20分位取り組みました。早い子は5分ほどで「終わった」と、持ってきました。

子どもたちの認定試験の結果は、6級~2段でした。大変意気込みのある子と、暑さに負けた子に別れたようです。子どもと大人が同じ成績だったのは、お母さんとメモを見せ合っていたからでしょうか?



## ◆終わって…

やれやれ終わった。というのが本音です。その後アンケートでは…楽しかった・もっと覚えたいという意見が多く、時期は10月頃が良いという意見が80%でした。また、この子ども樹木博士認定会を知ったキッカケをたずねる問いには、実施した施設の「陶史の森たより」、次いで「市報」という答えでした。

感想欄には、親切に教えてもらった・テストで覚える樹木が多いのでは?・もっと自然について教えて欲しい!・暑い日で休憩を多めに取ってほしい・生け花をしているが、役立つ勉強になった、などの意見が見られました。

一緒にがんばってもらった森林インストラクターと、お手伝いの2人に感謝しています。「ありがとう」。



## 夏休み つま恋子ども樹木博士教室

ヤマハリゾート つま恋 下嶋さつき

ヤマハリゾートつま恋は、東京と大阪のほぼ中間点、静岡県掛川市にあります。四季を通じて温暖な季候に恵まれ、緑あふれる自然環境の中、170万㎡の広大な敷地にゴルフ・乗馬・テニスなどのスポーツやレクリエーション施設、ホテル、天然温泉「森林乃湯」等を設けた複合型リゾート施設です。

毎年、夏休み期間は東京・名古屋・大阪などの遠隔地からの家族連れで大変賑わうのですが、普段自然に触れ合う機会の少ない都市部の子ども達に、つま恋の緑の中で自然に触れてもらおうと今回初めて企画しました。

私自身、自然教室のお手伝いはしていても専門的な知識があまりない為、森林インストラクターの太田峰夫先生にご協力頂き実施しました。企画決定から告知期間が短かったことや、他のイベントとのバッティング等もあり、参加人数は7名と少なめでしたが和気あいあいと楽しく実施することができました。

当日は、室内での受付・オリエンテーション終了後、太田先生作成のテキストを片手に「園内樹木ツアー」へ出発です。予め下見準備をしておいた30種類の樹木を順番にまわり、各ポイントでは太田先生がそれぞれの樹木の説明や葉の特徴をお話しし、子どもたちは熱心にメモをとり特徴を覚えます。私は説明後の樹木の葉を採集して、試験に備え持参のカゴに入れて持ち帰ります。炎天下での樹木ツアーは集中力を持続させるのに大変苦労しましたので、次回実施の際は種類を少し減らして休憩も入れながら実施してもいいのではないかと思います。

「園内樹木ツアー」の後は、研修室で「テスト予習」です。机の上に並んだ葉っぱと樹木名札を照らし合わせてみんなで確認をしました。埼玉県から参加の海君は「絶対満点をとるぞ〜！」と張り切って覚えておりました。

「テスト予習」後は、机の上の樹木名札を片付け、葉っぱも並べ替えて、いよいよ「テスト」の始まりです。30種類もあると似たものもあり迷っている様でし

たが、一生懸命解答用紙に書き込む姿は微笑ましいものがありました。(思い出そうとしても名前がなかなか出てこないで、苦し紛れにモッコクをモロッコと書いている子どももいました。)

30分間のテストが終了すると、解答用紙を集めて私が採点作業に入ります。その間、太田先生と子ども達はひとつひとつ葉っぱを見ながら答え合わせをして復習です。採点が終了すると「認定証」に取得級と名前を書き入れて「認定証授与式」の準備です。参加者7名でこれだけ手間取るという事は、定員の30名集まったの開催時は一体どうなることやら……

結果としては、8級1名、7級1名、4級2名、2段3名という成績で、満点狙いの子は30問中27問正解の2段、そして最年少参加者(幼稚園年長)は4問正解の7級と全員が好成績で終わることができました。



「認定証授与式」では、みんなの誇らしげな顔が印象的で、ひとつの達成感と大きな満足感を味わっている様子でした。

知らなかったことを知るということはとても楽しいことです。自然の中には知らないことがいっぱいあって、ワクワク感やドキドキ感を与えてくれます。「子ども樹木博士」を通してひとりでも多くの子どもたちに自然の中での感動と思い出づくりを体験して欲しい。そして、つま恋がその役に立てれば大変嬉しいことです。

## 会員さんからのメッセージ

今回は、各地のNPO法人の皆様にお願ひしました。

### 特定非営利活動法人 森林遊びサポートセンター（北海道）

私たちは、札幌市の南部定山溪温泉も近く、近郊の山々の眺めもよく、通称小鳥の村（森）の一端に事務所を構え、日々野鳥や動物達と接しながら活動しているサポートセンターです。

このセンターは、地域の人々と森林を守り育てる活動と、自然とのふれあいを通じて自然環境の保全を図るという意識の高揚に努めております。

活動分野として、①植樹から下刈・除伐・間伐等の森林づくり②森や樹木を使っての多様な遊び③森林づくりや森林遊びサポーターの養成④森林資源の有効利活用とその学習⑤自然観察と登山の企画とガイド、を行っております。

この一環として行っている「子ども樹木博士」の認定に当たっては、推進協議会始め森林管理局や署と、北海道当該支庁のご指導をいただきながら、今年8月3回目を実施いたしました。これからも更なるご指導とご支援の程お願いいたします。

（小林 文男）

### 特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校（長野県）

やまぼうし自然学校は当初、「森林インストラクター」の資格を持っている人同士が、「単独での活動よりも、集まった方が、よりたくさんの方に森林・林業を理解してもらえろ」ということで、グループ化した会でした。その後、自然観察会を主催したり、森林教室の講師で行政から招かれたりといった機会がありましたが、そういった活動をする中で、普及・啓蒙・教育の必要性を実感し、団体設立に至りました。

現在は、荒廃している森林の再生・森林文化の継承・次世代の子どもたちへの森林環境教育を社会的ミッションとして、森林整備、指導者養成、環境教育、クラフト、グリーンツーリズム、自然を理解し親しむ倶楽部の6つの事業を展開しています。

その中でも、「子ども樹木博士」は森林環境教育のプログラムの1つとして活用しています。毎回、子どもたちの記憶力の素晴らしさや観察力には、関心させられます。今後も少しでも多くの子どもに「自然」を伝えられるよう、活動を進めていきたいです。

（加々美 貴代）

### 特定非営利活動法人 木もく倶楽部（東京都）

当倶楽部は「緑を守り、子供の心を育てる」をテーマに10年来、黙々と行動してまいりました。都会の団体ですから、美しい里山や、緑深くさわやかな溪流など、大自然とはほど遠い世界に生活をしています。それだけに『木もくの森林』（群馬県片品村武尊山国有林内）で森林の学校（キャンプ）を開催すると子供たちの感動はひとしおのようです。

このフィールド内の樹木で、子ども樹木博士認定会をキャンプ最終日に行いますが、結構、子供たちは楽しみにして来ようです。日本大学生物資源科学部造林風致学研究室の鍛代先生や学生さんたちと共に、遊びの中で自分の大好きな「樹」を見つけようと森林の中を歩き回ります。あらかじめ私が「押し葉」にしてラミネートをしたカードをそれぞれが1枚ずつ持って女の子をブナ組、男の子をミズナラ組としてカードと同じ「葉」を見つけるゲームを楽しみ、認定会に臨みました。自然科学を楽しみ、感性を育むプログラムを実践しています。

緑の豊かさが水の豊かさにつながり、命の源であることがわかってきた夏でした。（代表・理事 上田 侑加）

特集2

樹木説明

虎の巻

子どもたちをどうしたら  
惹きつけられるか ①



導入方法編

森林インストラクター  
NPO法人自然楽楽倶楽部 理事長 柳原 高文

樹木に関心がある。樹木が大好き…大人ならばともかく、こんな子どもはあまりいません。いや、いると考えると説明を開始してはいけません。自然大好きな子ども達が参加してきますが、「子ども樹木博士？ん？何だか分からないけど、外で遊んでくれるならば参加しようかな？」「親が参加しろといたから来たんだぞ〜」…こんなノリで参加してきた子どもがほとんどと考えて説明を開始した方がよろしいかと思ひます。

また、自然大好き=昆虫大好き。と理解したほうが良いようです。「よし、昆虫が好きならば、どんどん昆虫見つけて、昆虫の話をして惹きつけるぞ〜」という作戦にすると、参加してきた子ども達は大喜びですが、いったん昆虫目になった子ども達は、樹木目にはなってくれません。どんなに面白い実をつけていても、葉がいいにおいをしていても、関心は「昆虫探し」。惨憺たる子ども樹木博士イベントになってしまうでしょう。

樹木が主体のイベントならば、導入は樹木に関係のあることから始めなくてははいけません。いきなり樹木の説明では、参加者の気持ちを惹きつけるのは難しいかと思ひます。特に初めて参加する子どもが多いときは、アイスブレイクもかねて、ゲームからスタートした方が、その後の分かち合いがうまくいくと考えられます。では、どのようなゲームが考えられるでしょう？その例としていくつかゲームを紹介します。

木の葉のカルタとり

①葉っぱについての説明

「この中で葉っぱが好きな人〜」……子ども達は、問いかけられ、手を挙げることで話に集中してきます。

②「葉っぱの役目はなにかな？」「この葉っぱ面白い形をしているね？何に似ている？」……どんどん話に引きずり込みます。また、質問を利用して、葉っ

ぱの特徴の識別方法などを教えていきます。

- ③2つのグループに分け、葉っぱのカルタ取りの開始。  
指導者が見せた葉っぱを子ども達が取り合います。少し距離をおいて走らせてもいいし、百人一首のごとく正座対戦してもいいし、指導者の個性でルールを決めていけばいいかと思ひます。当たり前のことですが、危険を回避することは一番大切なことです。



右が著者。子どもたちとともに。

④分かち合い

ゲームに参加して、葉の特徴を

つかむことが楽しくなっているはずですが、そのことの復習や、樹木の役目、大切なことなどを面白く話していくと、子ども達は、もう樹木ワールドに入り込んでいます。その後の子ども樹木博士の進行が、スムーズになると思ひます。

目かくしいもむし

①森の入り口でスタート。

参加者を10人くらいのグループに分け、背の順に並ばせます。(できれば、女の子の後ろは女の子になるように配慮します。)全員バンダナで目隠しをして前の人の背中に手を置き、巨大いもむしができあがります。指導者が先頭の子の手首を持ち、ゆっくりと森に誘導していきます。

②途中で何回か立ち止まり質問します。

「今、お日様はどっちの方向かな？」「風はどっちから吹いている？」子ども達は目が見えないので感覚がとぎすまされてきます。

③樹木 of 感覚を感じます。

「この葉っぱさわってみて」……「つるつるしているね？」「こっちはざらざらだね？」

「この香りをかいてみて」……「なんか、かいだことあるよこれ！」  
 「この地面の感覚はどう？」……  
 「すごくふわふわしている!!!」  
 こんな感じで、自然にどっぷりひたってもらいます。



目かくしいもむし

- ④目隠しを取るのは森の中  
安全に森の中に誘導できたら、そっと目隠しをはずします。木漏れ日の美しさに感動することでしょう。
- ⑤分かち合い  
葉っぱのこと、森のことから樹木について説明をし

ていきます。気持ちが静かになるゲームですので。静かなムードで子ども樹木博士のイベントが進行していくと思います。  
 以上のようなゲームを認定会に取り入れてみてはいかがでしょうか。次回は、「五感で樹木を覚える」について特集したいと思います。

**NPO法人自然楽楽倶楽部**

「自然を楽しみます、楽しませます」この言葉をコンセプトに活動しています。私たちの行っている「子ども樹木博士」は、樹木の説明半分、自然遊び半分です。皆さんのご参加をお待ちしております。  
<http://www.appleangel.com/nature/rakuraku.html>

## 子ども樹木博士ホームページのご紹介

子ども樹木博士のホームページに遊びに来ていただいたことはありますか？ここでは、ホームページの活用の仕方について、改めてご案内してみたいと思います。これを機会に、ぜひ覗いてみてください！

**■ホームページでできること■**

主な機能は以下のとおりです。

- ① 子ども樹木博士プログラムの紹介  
これまで郵送でご紹介していた資料や開催までの様々な情報が、ホームページ上で確認できます。また、講師の先生の紹介もメール・電話で対応しています。
- ② 樹木ガイド  
「街で見かける樹木50」として写真と樹木の説明を載せています。
- ③ 質問コーナー・会員登録  
子ども樹木博士の開催の仕方についてなどの質問に答えています。また、この協議会の会員になってくださる場合に、お申し込みができます。

**HPアドレス**

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo/>



**事務局の  
おすすめ  
機能！**

**●実施の登録、および報告**

これらがWEB上で行えます。実施登録は、「開催のしかた」→「子ども樹木博士実施計画のPR」→「実施計画書の登録はこちら」とありますので、ここのフォーマットに入力してください。すると、事務局が計画書を受理すると、「開催予定のご案内」のページに反映され、あなたの団体の予定が、ホームページに掲載されます。

報告については、事務局からメールで送られてくる「パスワード」を使って、活動レポートコーナーから簡単に登録できます。写真も貼り付けられます。

**●開催予定のご案内**

実施登録をした団体の予定は、全てこちらに掲載されています。どこで、いつ開催され、連絡先はどこかなど、ここでチェックできます。あなたの団体のPR場所としても活用ください。

なお、このページで見つけたお近くの団体に連絡したり、先に実施した団体に参考になる話を聞きながら計画を進める、という「ネットワークづくり」も当協議会のねらいの一つとなっていますので、積極的な情報交換をしていただきましたら幸いです。

このホームページは「子どもゆめ基金」の助成を受けて作成しました。ご活用ください！

# 事務局だより

## ◆今年度の実施状況

これまで、事務局に寄せられた、今年度の実施状況を紹介します。

4月 29日	栃木県木材需要拡大システム協同組合	栃木
5月 17日	松阪自然探究会	三重
5月 18日	ボーイスカウト京都第42団(京都森林インストラクター会)	京都
5月 21日	吾妻森林管理署	群馬
5月 22日	中部森林管理局 富山森林管理署	富山
5月 25日	根来山げんきの森倶楽部	和歌山
5月 24日	日本大学生物資源科学部	神奈川
5月 24日	ふくおか森林インストラクター会	福岡
5月 25日	自然楽楽倶楽部	埼玉
5月 31日	東京都・東京都農林水産振興財団	東京
6月 7日	山梨県・(財)山梨県緑化推進機構	山梨
6月 14日	中部森林管理局 富山森林管理署	富山
6月14・15日	群馬県緑化センター	群馬
6月 21日	日本大学生物資源科学部	神奈川
6月 26日	天竜林業高等学校	静岡
6月 28日	NPOやまぼうし自然学校	長野
6月 28日	三重県安芸郡河芸町中央公民館	三重
7月 6日	日本大学生物資源科学部	神奈川
7月 13日	豊中市青年の家いぶき	大阪
7月 22日	京都府緑化推進協議会福知山地方支部	京都
7月 22日	日本大学生物資源科学部	神奈川
7月 27日	兵庫県立東はりま水辺の里公園	兵庫
7月 27日	NPO木と遊ぶ研究所	新潟
7月 29日	吾妻森林管理署	群馬
8月 2日	京都府林業試験場夜久野分場	京都
8月 2日	山梨県・(財)山梨県緑化推進機構	山梨
8月 3日	土岐市「子ども樹木博士」認定協議会	岐阜
8月 3日	ちば「子ども樹木博士」認定事業実行委員会(みつわ台地区)	千葉
8月 3日	NPO森林インストラクターしずおか	静岡
8月 3日	(独)林木育種センター関西育種場	岡山
8月 3日	森林遊びサポートセンター	北海道
8月 4日	オホーツク森の案内人友の会	北海道
8月 6日	関東森林管理局	群馬
8月 8日	NPOやまぼうし自然学校	長野
8月 10日	NPO森林インストラクターしずおか	静岡
8月 10日	ヤマハリゾート つま恋	群馬
8月 11日	長岡市環境部環境政策課	新潟
8月 19日	北海道森林管理局函館分局	北海道
8月 21日	ちば「子ども樹木博士」認定事業実行委員会	千葉
8月 22日	山梨県・(財)山梨県緑化推進機構	山梨
8月 23日	NPOみどり環境ネットワーク!	東京
8月 23日	北海道大学中川演習林	北海道
8月 24日	NPO森林インストラクターしずおか	静岡
8月 24日	(独)森林総合研究所	茨城
9月 6日	いわて森林インストラクター会	岩手
9月 13日	新潟県森林インストラクター会	新潟
9月 18日	北海道大学中川演習林	北海道
9月24・27日	東京大学北海道演習林	北海道
9月 28日	緑と花の市民の会	北海道
9月 28日	NPO木と遊ぶ研究所	新潟
10月 4日	石川県県民の森事務所	石川
10月 10日	函館市立駒場小学校	北海道
10月 12日	西東京市子ども樹木博士を育てる会	東京
10月 19日	(独)林木育種センター	茨城
12月 13日	中部森林管理局 富山森林管理署	富山

## ◆実施の計画書・報告書提出のお願い

子ども樹木博士のプログラムは、どなたでも実施していただける遊びのプログラムです。この活動の広がりやを把握するためにも、計画書・報告書の提出をお願いします。事務局ではそのデータを集計し、この活動の広まりの状況から、様々な機会での活動をPRをしたいと考えています。

どうぞよろしく願いいたします。

## ◆子ども樹木博士ニュース編集委員会発足

今号から、子ども樹木博士ニュースの大きさ(B4→A4)、および記事内容が一新されました。

編集委員会を設け、記事内容にも変化をもたせました。今回新しく始まった企画としては「インターネットで見る樹木図鑑」と「子ども樹木博士虎の巻」で、しばらく連載して行きます。これからもこれらの連載ものを中心に、実施事例報告も織り交ぜながら、発行していきたいと考えています。

また会員・実施団体の皆様からの投稿なども、お待ちしております。

投稿に関しては、分量は1ページ1600文字(写真・図等含む。写真1枚につき200文字とお考え下さい。)です。

なお、投稿いただいた原稿は、編集の都合上、若干の変更が生じる場合がありますが、事務局に一任していただくよう、お願いいたします。

## 子ども樹木博士ニュース

2003年10月15日 No.12

### 子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6F

(社)全国森林レクリエーション協会 内

TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472

E-mail: info@shinrinreku.jp

URL: http://www.shinrinreku.jp/kodomo/